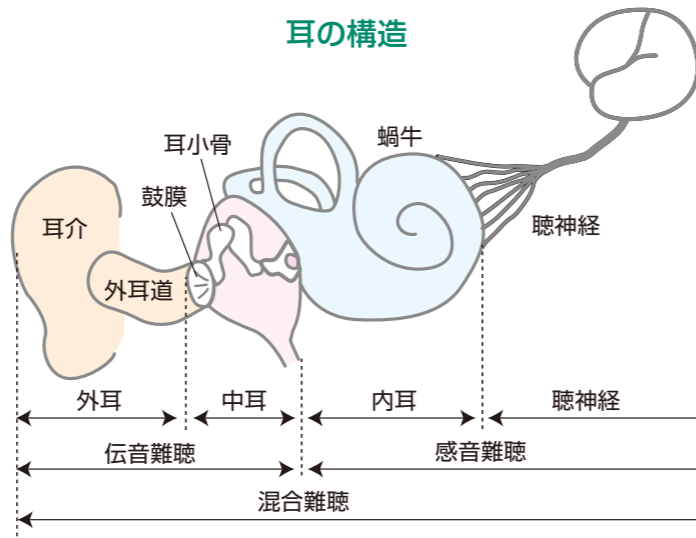


きこえのしくみ

私たちが音を聞くと、音は耳介から外耳道へと伝わりその奥にある鼓膜を振動させます（ここまでを外耳といいます）。鼓膜の奥は中耳といい、鼓室と呼ばれる空間があります。中耳の鼓室には耳小骨という小さな骨があり、内耳へ音を効率的に伝えていきます。内耳には音を感じる有毛細胞があり、そこで感じとった刺激を電気信号に変え、聴神経を通じて脳の聴中枢へと送ります。音声の判別にとって大事な役割をしているのが、カタツリのような形をしている内耳にある有毛細胞です。この有毛細胞が何らかの原因で欠損することにより、音を聞いたり、言葉を正しく聞き取ることが難しくなります。



聴覚障害って、どんな障害



聴覚障害には3つの種類があります。伝音難聴、感音難聴、伝音難聴と感音難聴の両方を併せ持つ混合難聴の3種類です。

伝音難聴は外耳や中耳に障害部位がある場合をいいます。伝音難聴の原因は中耳炎など一般的に医学的治療で改善するものが多くあります。伝音難聴は音が聞こえにくくなるのが特徴です。障害の程度にもよりますが、聞こえのイメージとしては耳栓をしたような状態になります。

感音難聴とは内耳から脳の聴中枢に障害部位がある場合をいいます。加齢のために起こる老人性難聴は感音難聴のことを言います。一般的には難聴というと耳栓をしたようなイメージにとらわれがちです。しかし、実はそれだけではありません。障害の程度にもよりますが、「音」だけでなく「言葉」も聞こえづらくなるのです。



本リーフレットは障害のある方と、より良いコミュニケーションを築ききっかけとなることを願って作成しました。さらに詳しい内容は「障害のある方への接遇マニュアル」に掲載されています。詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shinsho/index.html>

平成28年10月

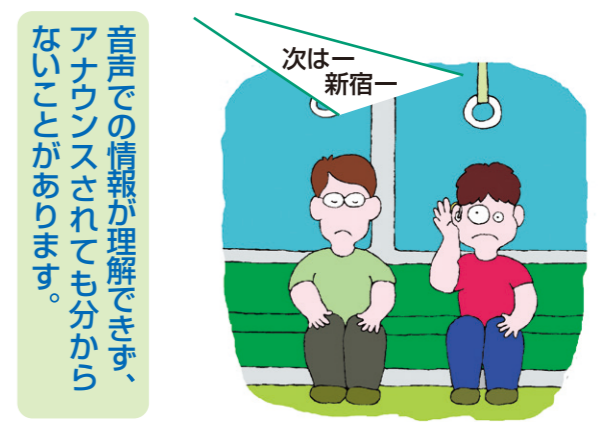
発行：東京都心身障害者福祉センター 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ
電話 03-3235-2952

東京都
再生紙を使用しています

聴覚障害の理解のために

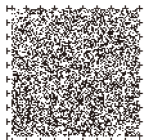
聴覚障害があることは外見では判断しづらいため、周囲に気づいてもらえないことが多くあります。会話だけでなく周りの状況を知るための音の情報が入りにくいことも不自由な点です。全く聞こえない方もいれば聞こえづらい方もおり障害の程度や状態によって様々な生活上の不自由さがあります。

例えば、こんなことに困ることがあります



このリーフレットについて

ここで紹介している情報がすべての聴覚障害者にあてはまるわけではありません。中途半端な知識と思い込みで、障害のある方に接することは、避けなければならないことです。「その人」の理解は、障害のあるなしに関わらず、お互いに一人の人間としてつきあう中で育まれるものではないでしょうか。

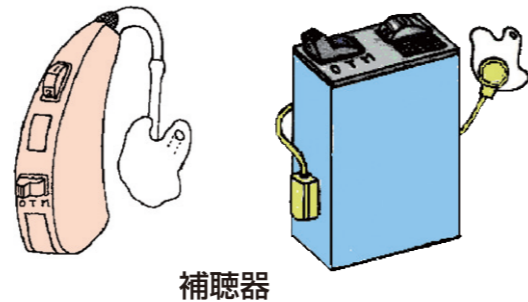


聴覚障害者とのコミュニケーション

聴覚障害者は、聞こえ方やこれまでの生活によって、それぞれコミュニケーション方法を身につけています。コミュニケーションには、音声での会話、読話、筆談、手話などさまざまな方法があります。多くの聴覚障害者は、どれか一つの方法だけを使うのではなく、いくつかの方法を相手や場面に応じて組み合わせて使っています。聴覚障害のある方と出会ったら、まず、どのような方法でコミュニケーションをとればよいかたずねてください。きっとあなたとそこに合う方法を教えてくれるはずです。

補聴器

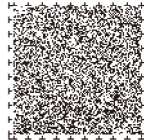
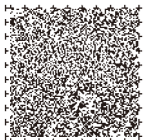
補聴器は基本的に音を大きくする器械です。音を感じる器官（内耳）が傷害されている方も多く、補聴器で音を大きくしても会話がきちんと聞き取れるとは限りません。その理由は障害の程度によって異なりますが、聴覚障害のある方の多くが音だけでなく言葉が聞こえづらくなるからです。補聴器の使用にあたっては、相手が聞きとりやすい話し方の工夫が必要です。



補聴器

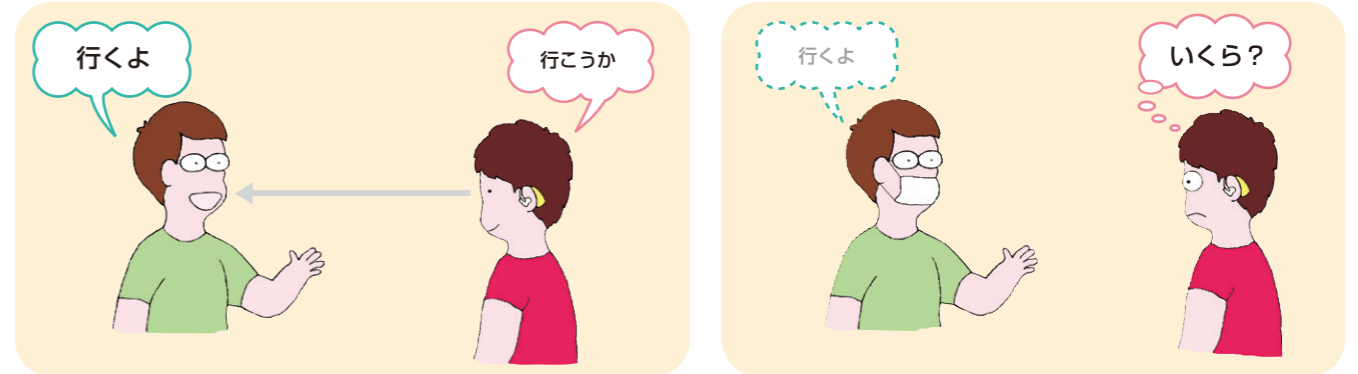
話し方のポイント

- ◎普通の大きさの声で、ゆっくりめに、文節で区切って話しましょう。
区切り方の例：今晚／正男さんが／久し振りに／来ますよ。
- ◎お互いの顔を見ながら話しましょう。
- ◎周囲の雑音を少なくしましょう。



読話

補聴器や手話に併用して、相手の口の動きを手がかりに話していることを理解する方法です。話題の前後関係、話されている場面、相手に関する知識など、いろいろな手がかりから話された言葉を推測します。口の形や表情が見えやすいように、顔を相手に向けて、おおげさにならない程度にはっきりとした口の動きで話すように心がけます。



筆談

伝えたいことを文字や図に書いてやりとりする方法です。筆談は時間がかかりますが、情報を伝えるのに確実な方法です。長い文は前後の関係が複雑になり、理解しにくくなります。短い文で見やすく、分かりやすく書くようにしましょう。

悪い例

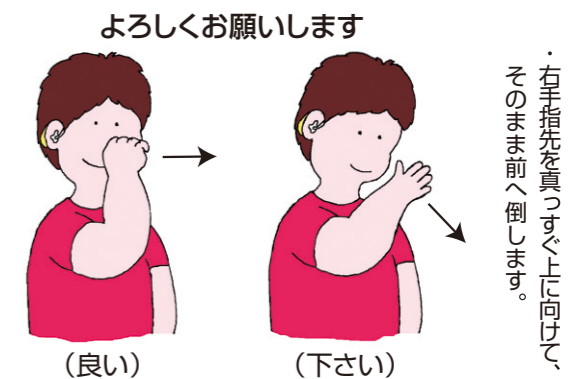
チケットの申込みは15日から始まりますが、申込み方法については5日に発表されますので、5日以降に当店に問い合わせてください。

良い例

チケットの申込み→15日開始
※申し込み方法は、5日以降に問い合わせる
問い合わせ先：〇〇株式会社
ファックス 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

手話

手話は手・指の動き、表情や動作などによって表現する視覚的な言語です。日本語での会話表現を単に置き換えたものではなく、手話独自の文法構造があります。聴覚障害のある方の多くは、相手に応じてコミュニケーション方法を使い分けているため「手話ができないから」とコミュニケーションをとることをあきらめないようにしたいものです。



その他

表情、身振り、空書、指文字、絵など様々あります。空書とは空中にゆっくりと文字を書く方法です。

指文字とは、日本語の50音を手指の形で示す方法です。



指文字

